

和歌山大学教育学部音楽専攻生による現代音楽コンサート Vol.1

メンバー

名田青麻，教育学部音楽専攻 3 回生（代表）

大西七彩，教育学部音楽専攻 3 回生

川端彩子，教育学部音楽専攻 3 回生

松山文香，教育学部音楽専攻 3 回生

松本都望，教育学部音楽専攻 2 回生※

奥井友実子，教育学部音楽専攻 3 回生

園部修子，教育学部音楽専攻 3 回生

山形若菜，教育学部音楽専攻 3 回生

吉積菜津子，教育学部英語専攻 3 回生※

指導教員：小寺香奈 山名仁※

※演奏参加

1. プロジェクトの概要・目的

このプロジェクトは、教職（音楽）を目指す学生が、「現代音楽」と呼ばれるジャンルのみでプログラムを構成したコンサートを企画・運営することで、現代音楽を地域に広く紹介し、また学生自身も現代音楽についての認識を深めることを目標としたものである。具体的には、2012 年前期よりプロジェクトを開始し、その成果として 2013 年 1 月 12 日（土）に和歌の浦アートキューブ キューブ A において約 2 時間半のコンサートを開催した。

現代音楽は一般に難解であると捉えられがちであり、和歌山のみならず関西では殆ど取り上げられる機会がないということ、また教職を志し音楽を学んでいる学生が、企画や広報から当日の演奏といったコンサート運営の実際を総合的に体験する機会はなかなか持つことができない、といった現状がある。同じ現代社会に生きる音楽家の作品の重要性から言っても、プログラムのすべてを現代音楽で構成しメインに据えたコンサートを行う意義は大きく、学生にとっても、今後の積極的な音楽活動のために非常に有益である。

2. 活動内容

2-1. コンサートの準備

- ・後期からの本格的な始動に向けての楽譜リサーチ
- ・週に一度、学生の自主練習と指導教員によるレッスン
- ・今回取り上げる作曲家を実際に和歌山大学へ招き、指導を受ける
 - 1 0 月 2 2 日 教育学部音楽棟にて、作曲家の伊左治直先生を迎えてのレッスン
 - 1 2 月 2 1 日 教育学部音楽棟にて、作曲家の山本裕之先生を迎えてのレッスン
- ・各地で行われる現代音楽コンサート・ワークショップへの参加
 - 1 0 月 2 0 日 いずみホール 「現代音楽のエッセンツィア 伊左治直を迎えて」
 - 1 1 月 1 7 日 愛知県立芸術文化センター 連続講座「ケージを知る Vol.1」

12月9日 愛知県立芸術文化センター 連続講座「ケージを知る Vol.2」

・各種のコンサート・プロモーション活動

宣伝用フライヤーをデザイナーの下野剛さんと共同制作

基本的なデザインや盛り込む事項の考案

近辺の教育機関・音楽団体への招待状と上記フライヤーの送付など広報活動

・学生同士での中間発表会

11月27日 音楽棟ホールにて 学生と指導教員の間で演奏の中間発表の場を設けた

・クリエ自主演習プロジェクト 徳島中間合同発表会への参加

12月22日 ミニコンサートの形式で数曲を演奏（本番のプログラムから数曲を抜粋）

・コンサート1週間前、本番に使用するホールでの練習

1月5日 アートキューブ キューブAにてリハーサル練習と運搬のシミュレーション

2-2. コンサート本番、成果

2-2-1. 当日のプログラムより

タイトル：和歌山大学教育学部音楽専攻生による

現代音楽コンサート vol.1

(Wakayama University contemporary music concert)

2013年1月12日(土)

アートキューブ キューブA

17時半開場 18時開演

スティーヴ・ライヒ(1936-)：木片の音楽(1973)

Steve Reich / Music for Pieces of Wood

アメリカの作曲家スティーヴ・ライヒは、ミニマル・ミュージックの先駆者として知られている。《木片の音楽》は、アフリカ音楽に影響を受けた《ドラミング》(1971)や2奏者による手拍子の音楽《クラッピング・ミュージック》(1972)に続く1973年の作品で、音程の異なる5組のクラベスのための作品である。1番奏者のみ終始同じリズムを奏しており、次々と各パートが加わり少しずつ響きが変化する。

ヘンリー・カウエル(1897-1965)：マノーンの潮流(1912)

Henry Cowell / The Tides of Manaunaun

アメリカのカリフォルニア生まれの作曲家。ピアニストとしても活動した。トーンクラスター（音の塊という意味で、鍵盤を手・腕・ひじを使って打楽器のように演奏する奏法）やピアノの内部奏法など後の現代音楽作品に多くの影響を与える演奏技法を開発したことでも知られる。《マノーンの潮流》は



広報の例：ニュース和歌山取材記事（2013.1.5）

1912年に作曲された初期の特徴ある作品で、左手のトーンクラスターはアイルランドの海の神マノノー
ンが荒海を渡り行く様子を描写しており、右手で民謡調の旋律が奏される。

山本哲也(1989-):スライドホイッスル三重奏曲(2011)

Tetsuya Yamamoto / Slide Whistle Trio

スライドホイッスルは気鳴楽器で、奇数倍音列を持つ閉管構造の管楽器である。オーケストラなどの合奏においては打楽器奏者が担当することが多く、使用法としては効果音的に扱われることが多いため、記譜は「だいたいこの辺からこの辺まで」という相対的で図形的なものとなっている。メーカーや機種によって音域、音質、吹奏感、スライドの抵抗感などの個体差が大きいため、奏者自身による楽器選択が非常に重要になる。最後のみ絶対音による音高指定をしたが、一般的な楽器法や冒頭からの継続性から鑑みると、この「オチ」は極めて異質に響くことになるだろう。(山本哲也)

ジョン・ケージ(1912-1992):トイピアノのための組曲(1948)より 1,2

ヴァイオリンとキーボードのための 6 つのメロディ(1950)

John Cage / Suite for Toy Piano

/Six Melodies for Violin and Keyboard

アメリカの作曲家ジョン・ケージは、キノコの研究者としても世に知られている。彼の作品や思想は、特に第二次世界大戦以降、数十年にわたってアメリカのみならず世界中の芸術創作活動に影響を及ぼしたと言っても過言ではないだろう。《トイピアノのための組曲》が作曲された1940年代にはプリペアドピアノ（ピアノの弦にねじやボルト、ゴムなどを挟み込んで音色を変化させたもの。打楽器的な音色が得られる。）が発明されたり、居間にある家具など日常生活のなかのものを演奏に使用する《居間の音楽》が書かれた。後に「偶然性の音楽」へと続く以前のこの作品は美しく可愛らしいメロディーで親しみやすい。当時ケージが共同で仕事をしていたマース・カニングハムが振り付けした「Diversion」というダンスのために作曲された。本日、《トイピアノのための組曲》は前、後半のプログラムに分けて演奏する。

～休憩～

山本裕之(1967-):Lux aeterna(2012)

Hiroyuki Yamamoto / Lux aeterna(永遠の光)

このミュージック・シアター作品では観客用照明がかなり落とされるので、上演中にこのノートを読むことは不可能だと思われる。照明が落とされた空間は、息の詰まるような密閉感に見舞われる。それが一瞬でも解けるのは、奏者が外で奏する聖歌《Lux aeterna》が聞こえてくる時だけだろう。この作品にはストーリーは無いが、この作品の在る場所が読み解かれることを期待したい。(山本裕之)

伊左治直(1968-):コモノクニ物語集より 2,4

Sunao Isaji コモノココロ(2008)

《コモノココロ》は2008年、同窓会的なライブのために作曲された小品です。小物楽器を集めたアンサンブルということからタイトルはつけられました。作曲にあたり、コモノココロ→小心者→内気な演奏者たちの心象風景等々と、言葉の遊び心からイメージを広げてみました。なかでも演奏者の心拍数があがっている箇所は、「萌え系 voice」によりハッキリ聴き取れると思います。

《コモノクニ物語集》は、その経験を踏まえ、2012年から書き続けられている小品集です。タイトル

は小物楽器の国の物語、といったような意味です。今回はその中から2曲が演奏されます。(伊左治直)

ジョン・ケージ:ラジオ・ミュージック(1956)

トイピアノのための組曲(1948)より 3,4,5

John Cage / Radio Music

本日取り上げるケージ作品の中で唯一「偶然性の音楽」が開始された後の作品である。(ちなみに、セッションを巻き起こした《4分33秒》は1952年の作品。)楽譜はA~Hまでのパートがあり、1台から最大8台のラジオで演奏することができる。楽譜には演奏時間とともに、ラジオのチューニング(周波数)やボリュームの操作などが指定されており、4つのセクションから成る。演奏場所、時間によって放送されているラジオ番組が異なるため、二度と同じ演奏は実現できない。本日は最大演奏人数である8名で演奏する。和歌山バージョンの《ラジオ・ミュージック》はおそらく今夜がはじめてではないだろうか。

松平頼暁(1931-):Why Not?(1970)

Matsudaira Yoriaki / Why Not?

松平頼暁は国内外で高い評価を得ている東京在住の作曲家。東京都立大学理学部を卒業、作曲は独学。初期にはトータル・セリエリズムによる作品が中心であったが、後に不確実性や既存音楽からの引用などに関心を持つ。《Why not?》と同時期に書かれた「W」から始まるシアターピース作品に《Where now?》(1973)、《What's next?》(1967-71)がある。

《Why not?》にはいわゆる五線の楽譜はなく、演奏方法が書かれた説明文がすなわちこの曲の楽譜である。演奏人数は定められておらず、各奏者はあらかじめトランプの絵柄と対応する奏法を決めておき、めくって出たカードの絵柄の奏法を数字の秒数だけ演奏する、というのが大まかなルールである。また後に、《Why not?》と同じ手法でマークごとの演奏法だけを指定した《カードゲーム》(1995)が書かれている。

2-2-2. 当日の様子

本番直前のゲネプロから演奏曲目「スライドホイッスル三重奏曲」の作曲者、山本哲也先生が参加され、本番直前のレッスンや、コンサート内での紹介などが行われた。1週前リハーサルで当日と同内容のシミュレーションをしていたために、多くの楽器・準備物の運搬や客席のセッティングも円滑に行われた。来客数はおよそ130名ほど。コンサートは予定通りに進行し、盛況のうちに終演となった。

3. 所感と課題

コンサートの準備段階において、どういった作業が必要で、それぞれどの時期からどう段取りをつけて進めていくか、という基本的な点が経験の浅い学生には難しく、指導教員の経験を頼りに指示を仰いだ場面が多かった。その意味で、実際に体験してみればじめて分かる事柄は多く、収穫は大きかった。当初の「コンサート運営を総合的に体験し、学ぶ」目的は十分に達成されたと考えている。演奏面に関しても、作曲家本人によるレクチャーやレッスンを実現し、現代音楽ならではの有意義な交流を持つことができた。これは各人の音楽的知見を深めるうえでは、得が

たい経験となった。

一方で、今回のような多数の聴衆の前での一度限りの演奏ということになれば、演奏技術や、楽曲や背景に関する研究、練習体制などの課題が浮き彫りになり、そういった面での未熟を実感するところでもあった。引き続いて、学生自身の演奏技能の向上と、音楽全般へのさらなる学習の必要性を強く感じた。プログラムに関して、今回は演奏者と聴衆の双方にとって「入門編」との位置付けで構成されていたが、今回取り上げたような曲は現代音楽のごく一面に過ぎない。今後は、より踏み込んだ音楽へのアプローチが望まれる。

当日実施したアンケートの結果では、現代音楽の難解さ・ハードルの高さを感じた人は少なかったようで、現代音楽は初めてだったが分かり易かった、面白かったという意見が多かった。

全体を通してみると、コンサートを一から立ち上げ、来場者に楽しんでいただくという目的はおおむね達成されたとの感触を得ており、目立ったトラブルも起こらず、大過なく終演を迎えられた点は強調したい。加えて、およそ130名もの集客がなかった背景には、各種広報活動の成果というだけでなく、和歌山という地域のこうした文化的イベントへの関心の高さがあるのではないか。今回のような積極的な企画さえあれば、更なる成果が見込めるとの手ごたえを感じた。

和歌山大学教育学部音楽専攻生による
現代音楽コンサート volume 1

わかり易いけどマニアック、音楽だけ見て楽しい。和歌山大学発、オール現代音楽プログラム!

Program

- John White English
ジョン・ゲージ(1912-1992)
トイピアノのための組曲(1948)
Suite for Toy Piano
- ヴァイオリンとキーボードのための
6つのメロディー(1950)
Six Melodies for Violin and Keyboard
- ラジオ・ミュージック(1956)
Radio Music
- Yoshiki Matsumoto
松平頼暁(1931-)
Why Not?(1970)
- Steve Reich
スティーブ・ライヒ(1936-)
木片の音楽(1973)
Music for Pieces of Wood
- Tetsuya Yamamoto
山本哲也(1989-)
スライドホイッスル三重奏曲(2011)
"Slide Whistle Trio" for 3 Slide Whistles
- Hisashi Yamamoto
山本裕之(1967-)
Lux aeterna(2012)
- Simon Rost
伊左治直(1968-)
コモノココロ(2012) 他

作品の解説を
交えながらの
コンサートです。

出演

- 3年生 → 大西七彩 奥井友実子 川端彩子 園部修子 名田青麻
松山文香 山形若菜 吉積菜津子(英語専攻)
- 2年生 → 松本都望
- 教員 → 山名敏之(和歌山大学教授) 小寺香奈(和歌山大学講師・解説)

2013
1.12 土
17:30開場
18:00開演

和歌の浦アートキューブ キューブA
入場無料(全席自由)

●お問い合わせ
和歌山大学教育学部・小寺研究室 ●なるべくe-mailにてお問合せ下さい。
Tel. 073-457-7318 Mail. coteraka@center.wakayama-u.ac.jp
http://www.crea.wakayama-u.ac.jp

この演奏会は和歌山大学学生自主推進科学センターにおける「2014年度学生自主演習プロジェクト」の活動(即席・小寺音楽)として行われています。

作成したフライヤー